

press release

2013年8月8日

(本資料は、ロンドンにて2013年8月6日付で配信したプレスリリースの参考訳です)

スタンダードチャータードPLC 2013年度中間決算 収益・税引き前利益共に増加

力強い業績の香港・インド・アフリカを含む多くの市場で幅広く業績向上

2013年度上半期業績ハイライト

- 営業収益(自己クレジット調整分¹除く)は前年比4%増加、97億5千万米ドルを計上
- ホールセールバンキング部門の営業収益は2%増加、60億7千万米ドルを計上;顧客収益は6%増加
- コンシューマーバンキング部門の営業収益は7%増加、36億8千万米ドルを計上
- 事業展開する17市場で最低でも10%の収益成長率を達成
- 営業権(のれん代)減損及び自己クレジット調整前利益は4%増加、40億8千万米ドルを計上
- 韓国での営業権(のれん代)減損10億米ドル調整後の税引き前利益は33億2千万米ドルを計上
- 非常に流動性の高いバランスシートと、コアTier1資本比率11.4%の優れた資本力
- 自己資本利益率(ROE)は13.3%、1株当たり利益(EPS)は5%増と、引き続き株主の期待に応える
- 2013年度下半期の滑り出しも好調;グループの戦略と事業展開する市場の成長への確信は不変

スタンダードチャータードPLC(本社:ロンドン、最高経営責任者:ピーター・サンズ)は、8月6日付で、2013年度上半期の収益・税引き前利益が、事業展開する17市場で2桁台の収益増、25市場で5千万米ドル超の収益をそれぞれ達成したことを受けて、いずれも増加したと発表しました。当行グループの営業収益(自己クレジット調整分除く)は、コンシューマーバンキング部門の営業収益の増加とホールセールバンキング部門の第2四半期営業収益の拡大を反映して、前年比4%増の総額97億5千万米ドルに達しました。

下半期も、高い業績と旺盛な顧客の需要が持続する中での好調な滑り出しとなりました。健全なバランスシート、強力な資本力、豊かな流動性を誇る当行グループは、顧客の成長願望の達成に貢献しています。

2013年度上半期の世界の経済環境は厳しいものでしたが、グループが事業展開するアジア・アフリカ・中東の市場全体のファンダメンタルズは引き続き好調でした。グループの収益基盤は業務・市場・商品のすべてにおいて十分に多様化できています。

当行グループは、コスト管理を引き続き徹底する一方、投資は概ね収益増に見合う範囲で厳選しながら進めています。

¹ 「自己クレジット調整(OCA)」は、当行グループが発行した債券を、貸倒リスクを反映させるために損益計算書に基づいて公正価値で測定した評価額で調整したものです。対象は、既発社債、顧客業務の一環として組成されたデリバティブ商品に組み込まれている仕組債です。

2013 年度上半期の業績について、当行グループ会長ジョン・ピースは、次のように述べています。

「上半期の決算には当行グループの業務の多様性と堅調さが反映されています。当行グループが事業展開する市場を取り巻く外部環境は厳しいものでしたが、当行グループは顧客の成長への意欲を引き続きサポートしました。当行グループは健全なバランスシートと豊かな流動性を誇っています。下半期の滑り出しも好調であり、当行グループ取締役会は長期的な業績についても自信を持っています。」

当行グループは数多くの市場で優れた業績を上げています。その中には、半期ベースで初めて 10 億米ドル超の税引き前営業利益を計上した香港や、好調な業績が続く英国を含む欧米地域・アフリカが含まれます。インドも収益・税引き前利益ともに、前年比でそれぞれ 10%と 45%も伸ばしました。

韓国においては、6 月に行った中間決算報告に先立つ説明会で示唆しましたが、10 億米ドルに上る営業権(のれん代)の簿価見直しを行いました。業務構造の簡素化や主要事業以外の見直しを含む業務改革、生産性・資本利益率の改善など様々な対応策を講じています。当行グループは韓国最大の外国投資家です。当行グループのフランチャイズで引き続き重要な位置を占める韓国では、コンシューマーバンキング・ホールセールバンキング両部門のサービスを提供してまいります。

総費用は前年比 3%の増加となりましたが、当期の営業収益の伸び率を下回りました。当行グループは、顧客サービス向上のため、システム・店舗・テクノロジーへの投資を引き続き厳選的に実施しています。

当行グループは、流動性の維持、資金調達能力・資本力の強化という銀行業務の基本原則を重視しています。資金は主として顧客預金より調達しており、この先数年に関してもリファイナンスの必要額は限定的であることから、資本市場からは高い評価を得ています。当行グループのバランスシートは盤石で、預貸率は 76.6%、流動資産比率は 28%超、コア Tier1 自己資本比率は 11.4%と強固です。

リスク管理について、当行グループは厳しくかつ積極的に取り組んでおり、融資残高は保守的・かつ十分に分散されてます。クレジットコスト(減損費用)は、コンシューマーバンキング部門の数字が高くなったことから、当行グループ全体では 27%の増加となりました。コンシューマーバンキング部門の融資残高の 81%は全額または部分的な担保付きです。韓国の個人再生手続き(PDRS)急増問題は引き続き懸念材料ですが、PDRS 申請件数は 2013 年第 1 四半期にピークを打ち、第 2 四半期には安定に向かう兆しが見えてきました。ホールセールバンキング部門の資産の質は安定しており、クレジットコスト(減損費用)は 21%の減少し、新たな懸念材料は存在しません。ホールセールバンキング部門の融資残高の 65%は融資期間が 1 年未満です。

多様性で差別化

当行グループでは多様化が非常に進んでいるために、ある期間に一部の市場または商品の業績が低迷しても、成長と好業績が続く他の複数の市場や商品でそのマイナスを相殺することが可能です。2013 年上半期を見ると、コンシューマーバンキング部門におけるクレジットカード・個人向け融資・住宅ローン、ホールセールバンキング部門では外国為替・コーポレートファイナンスがそれぞれ 2 桁台の業績の伸びを記録しました。

当行グループの業績は 1 つの特定の市場の成長に依存したものではありません。例えば、当行グループにとって最大の市場である香港の業績は、他の市場を大きく凌いでいますが、それでもその業績が全体に占める割合は 20%以下に過ぎません。

東南アジア諸国連合(ASEAN)における当行グループの事業はさらに多様化が進んでいます。2013 年 2 月にミャンマーでの業務を再開しましたが、これで当行グループは ASEAN 加盟 10 カ国のすべてで事業を展開することになり、顧客の ASEAN 域内・域外との取引をサポートする体制が完成しまし

た。伝統に培われ洗練された国際金融市場として定評があるシンガポールでも、当行グループは有力な金融機関として地位を築いてまいりました。シンガポールの全体の業績に占める割合は約 12%となっています。上半期のシンガポールの収益は 3%減、税引き前利益は 12%減でした。その要因は、①ALM 収益を中心とする自己勘定収益の大幅な減少、②ホールセールバンキング部門、特にトレードファイナンスを取り巻く市場環境の悪化、③コンシューマーバンキング部門の主にバランスシートの両サイドにおける利鞘の縮小でした。第 2 四半期の取扱高が前期比で著しく増え、利鞘が安定したことから、下半期のシンガポールの業績は大きく改善すると予測しています。

ASEAN 全体に目を向けると、国別の収益伸び率はフィリピンが 22%、タイが 5%、ベトナムが 6%でした。

中国は、引き続き当行グループのネットワーク収益に最大の貢献をしています。当行グループが取引する中国の顧客は主として優良企業で、新規事業の立ち上げ、当行グループの国際ネットワークを活用する輸出、さらには世界全体との貿易取引に関心を持っています。当行グループはそうした中国企業の成長を支援するうえでの高い能力を備えています。中国本土はスタンダードチャータードにとって、ダイナミックな機会をもたらす市場であり、当行グループはこれからも投資を続けてまいります。対中投資にあたっては、最も高い成長が見込まれる都市部をターゲットとしていきます。

アフリカでは 2013 年に向けて素晴らしいスタートを切り、上半期には収益が 16%も増加しました。とりわけ力強い成長を記録した国は、ガーナ・ザンビア・ケニアです。当行グループはアフリカ全体で、人材開発・システムの拡充・新規支店開設への投資を続けています。2013 年下半期には、サブサハラアフリカで 3 番目の経済規模を持つアンゴラにおいて、当行グループにとって初の拠点を合弁銀行方式で開設します。モザンビークでは拠点の拡充を計画しています。

当行グループの英国を含む欧米地域にある拠点は、当行グループの世界的ネットワークにおいて重要な役割を担っています。これらの地域には、当行グループが事業展開する市場に欠かせない欧米企業の本社が存在しており、また欧米の主要金融市場に繋ぐ上でその存在が不可欠だからです。英国を含む欧米地域の上半期収益は 5%の増加でした。

ホールセールバンキング部門の非常に強靱な収益ベース

ホールセールバンキング部門の収益は 2%の増加でした。同部門の 80%を占める顧客取引に伴う収益は 6%の伸びでした。顧客収益は特に第 2 四半期に前期比で大きく増えましたが、その背景には、複数の商品と市場での取扱高が著しく拡大したことと、売買マージンや利鞘の縮小がありました。

ホールセールバンキング部門の顧客収益の 50%以上は、顧客が本国以外、つまり外国と行う取引によるものから生じています。そのことは、当行グループの国際ネットワークの重要性と事業展開する市場間の相互関連性の高まりを裏付けています。

収益源の多様化は十分に進んでおり、コーポレートファイナンス事業とフィナンシャルマーケット事業で強い成長が見られました。トレードファイナンス分野で世界 2 大銀行の 1 つとしての座を守りつづける当行グループのトレードファイナンスの業績は前年比で 18%も増加しました。

コンシューマーバンキング部門における好調な収益

コンシューマーバンキング部門では、第 1 四半期から引き続き収益は好調で、上半期全体の収益は前年比 7%増の 36 億 8 千万米ドルに達しました。収益の拡大は幅広いもので、シンガポール・韓国での業績の低迷をカバーした香港・インド・アフリカ・中国での力強い業績が反映されています。

住宅ローン収益は、前年のローン残高の増加と利鞘の拡大を反映して、18%の増加を記録しました。預金収益は7%の減少となりましたが、預金残高総額が2%縮小したことと、特に香港・韓国・インドネシア・中国において利鞘が縮小したことが影響を与えました。ウェルスマネジメント事業は、上半期のかんりの期間を通して投資家センチメントが高まったことを反映して8%の増加となりました。

コンシューマーバンキング部門の営業利益は、クレジットコスト(減損費用)が74%増となったために、前年比で6%減少しました。クレジットコスト増加分のうち8千万米ドルは韓国におけるもので、その中の約5千万米ドルはPDRSに関連したコストでした。ほかに、タイで3千万米ドル、債権譲渡の時間差に伴う約4千万米ドルのクレジットコストがそれぞれ発生しました。クレジットコスト増の残りは、融資残高の増加、無担保商品を含むポートフォリオの構成比の変化、一部の販売が中止された商品のクレジットリスクの上昇を反映したものでした。しかし、コンシューマーバンキング部門は、数多くの市場と商品で、費用を厳しく抑制しながら、収益を確実に拡大させました。

詳細につきましては、下記の担当者へご連絡ください。

Jon Tracey, Head of Media Relations
Standard Chartered Bank
Tel: +44 20 7885 7613 / +44 7730 051846
jonathan.tracey@sc.com

日本語でのお問い合わせは下記にて承ります。

スタンダードチャータード銀行
コーポレート・アフェアーズ部
Tel: 03-5511-1245 / Fax: 03-5511-9311
CA.japan@sc.com

財務実績ハイライト

グループ (単位:百万米ドル)	2013 年度上半期	2012 年度上半期	増減(%)
営業収益	9,751	9,371	4
費用	5,034	4,963	3
クレジットコスト	730	583	27
税引き前利益	4,088	3,936	4
ホールセールバンキング			
営業収益	6,068	5,996	2
税引き前利益	3,230	2,992	7
コンシューマーバンキング			
営業収益	3,683	3,515	7
税引き前利益	858	899	(6)

市場別税引き前利益

市場 (単位:百万米ドル)	2013 年度上半期	2012 年度上半期	増減(%)
香港	1,033	870	19
シンガポール	544	546	0
韓国	(861)	303	(384)
他のアジア太平洋諸国	636	765	(14)
インド	450	311	45
中東・南アジア	551	378	46
アフリカ	357	311	10
米州・欧州(英国を含む)	615	464	33
合計	3,325	3,948	(16)

スタンダードチャータード銀行-アジア・アフリカ・中東地域における先駆者として

スタンダードチャータードはロンドン証券取引所、香港証券取引所、ムンバイ証券取引所、ならびにインド国立証券取引所に上場している国際的な金融グループです。世界で最もダイナミックな市場-アジア・アフリカ・中東地域において150年以上の歴史を誇り、グループの収益の約9割は、それらの地域で創出されています。また、世界68か国で1,700余のオフィスを有する当行は、国際的なキャリア構築の機会を総勢89,000余名の行員に対して生み出しています。当行グループでは、長期的視野に立った持続性のある事業構築に取り組む傍ら、高いレベルでのコーポレートガバナンスを保持すると共に、社会的責任を果たし、環境保護と多様性のある人材育成にも力を注ぐことで、世界中の信頼を得ています。私たちのブランドプロミスである「Here for good」は、このような当行の伝統と企業価値を反映しています。

日本におけるスタンダードチャータード銀行について

日本におけるスタンダードチャータード銀行の歴史は、横浜に初めて駐在員事務所を開設した1880年にさかのぼり、今年で133年目を迎えます。アジア・アフリカ・中東地域で投資事業を展開する日本の企業法人・金融法人のお客様向けに、多岐にわたる金融サービスを提供し、さらなる成長を続けています。

スタンダードチャータードグループHP(英語) www.standardchartered.com

スタンダードチャータードグループfacebook(英語) www.facebook.com/standardchartered

スタンダードチャータードグループTwitterアカウント @StanChart

スタンダードチャータード銀行在日支店HP(日本語) www.standardchartered.co.jp

スタンダードチャータード銀行在日支店 HP(英語) www.standardchartered.co.jp/en/index.html